

ブログを活用したショッピングサイトの取り組み

埼玉県立大宮商業高等学校教諭 荒金 洋次

1. はじめに

情報通信ネットワークを利用して、商品売買や決済などを行う取引形態が一般化し、従来の店舗販売や通信・訪問販売とは違った販売手法が求められるようになった。

現在の情報通信ネットワークにおける販売形態は、ショッピングカート型システムを利用したショッピングサイト（以下ショッピングサイトという）と、入札方式のネットオークションが多く見受けられる。この販売方法は、人的隔たり・場所的隔たり・時間的隔たりが解消されるうえ、カタログ販売やテレビショッピングなどの通信販売よりも、はるかに少ない費用で運営できることから、小規模小売店においても運用が可能である。

また、ショッピングサイトは、直接店舗に足を運ぶことの難しい高齢者や、共働きの世帯からの商品の注文にふさわしい方法として必要不可欠になると思われる。直接お客様と接する相対販売、電話やFAXによる販売につづく、第3の販売方法として至急対応する必要がある。

そこで、課題研究（2単位）授業「コンピュータ活用」において、起業家教育としての位置づけを意識し、ブログを活用したショッピングサイト構築の取り組みを実習室内においてのみ試みた。高校生のささやかな力量においても、ショッピングサイトが開設できる。

また、地方や地域の商店街の経営者の方が、積極的にショッピングサイトを開設し、さらに効果的に運用してもらえるような方法を研究することにより、将来におけるネットを通じてのインターンシップの実現を念頭においた。

2. 取り組みの方法

取り組みは、課題研究受講者15名が行った。取り組みの内容は次の通りである。

① ショッピングサイトの学習

インターネット上で展開しているショッピングサ

イトの学習、仮想店舗の雰囲気、アクセス状況などについて学習した。

② ショッピングサイトの開設

システムについては、株式会社テレジャパンが開発した「スクログ」と、オープンソースのショッピングカートシステム「osCommerce（オーエスコマース）」を組み合わせたショッピングサイトを使用した。

高校生のスキルで開設やカスタマイズできるという、取り組み内容にそったシステム構築をしていただき、ライセンスを購入して校内LANに導入する方法で実施している。

3. ショッピングサイトとブログの融合

今回の取り組みでは、高校生程度のスキルで運用できるネットショッピングシステムとして、株式会社テレジャパンが開発した「スクログ」と「osCommerce」を組み合わせたシステムを利用することにした。

ショッピングサイトは、写真と説明文を参考に商品を購入するシステムであるが、実際に商品を見ることができず不安に感じる消費者が多いことから、様々な評価システムをあわせもっている。5段階で評価したり、カスタマーレビューを書いたりするサイトがあるが、構築が難しく、常設の担当者も必要となる。

そこで、この取り組みでは、評価システムにホームページよりも公開・更新が容易な「ブログ」を使ったシステムを利用することにした。このシステムを利用することで、スムーズな初期設定、容易なメンテナンスをねらった。これは「ブログ」が高校生にとって身近な存在であるうえ、ワープロ感覚で更新ができることから、高度なスキルが必要ないと考えたからである。

4. サイト構築の向上にむけて

サイト構築練習として3つの方法を行った。

第1が「osCommerce」の商品陳列方法研究であ

る。ここでは、写真の配置や文章の表現方法などを研究した。

第2が「スクログ」の研究である。商品をアップロードのためクリップアートを利用し、価格、商品説明、購入後の効果などを相互発表評価し、ブログに書き込み役立てた。

また、単に商品の評価をするのではなく、売主に、生産、処理・加工、流通・販売等の各段階での生産履歴（トレーサビリティ）の情報提供を重視し、商品の安全、安心に意を用いさせその効果を探った。

第3がブログへの授業の進展や感想・思いを記入させた。これはまさに本人の日記、記録である。

5. ショッピングサイトのシステム

それでは、ここで、授業で実践している「スクログ」と「osCommerce」を組み合わせたショッピングサイトのシステムの概要を紹介する。

(1) 目的

高校生にサイバーショッピングサイトにおける商品陳列・PRの技術等を身に付けさせることで、電子商取引に積極的に参画できる人材を育成する。

(2) 取り組みの特徴

従来のショッピングサイトにブログを併設して運用する。運用者の情報技術のレベルは、商業高校で商取引の基礎を学び、会計や情報処理の基礎技術を身に付けた者を対象とする。

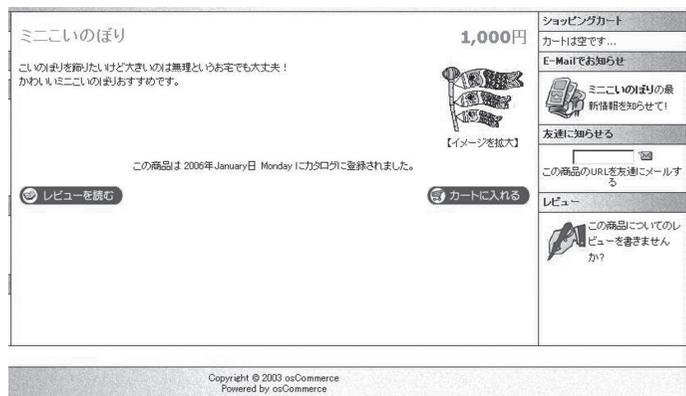
ブログは高校生にとっても身近な存在であり、ホームページよりも公開・更新が簡単であることから、この特徴を利用してサイトを運営する。

そこでは商品の双方向評価を行い、商品自体を売主・買主が評価し、ブログに書き込んでもらうという点に新規性があるといえる。

さらに、売主に、生産、処理・加工、流通・販売等の各段階で生産履歴（トレーサビリティ）の情報提供を義務付けることで、ショッピングサイト内の信頼性を高めることをねらう。

(3) システムの位置付け

授業では、ショッピングサイトの商品陳列を行うとともに、ブログを分析してPR文を掲載することを行



う（商品陳列の代行のみとし、商品管理は行わない）。そのため、サーバの管理は教員が行う。

また、決済に関する業務は、すべて売主と買主のみの間で行われ、本人は一切関与しないこととする。本人の利益（ベネフィット）は「osCommerce」の使用法の学習及び効果的な商品陳列・PR技術の学習のみであり、商品売買時に発生する利益（プロフィット）ではない。買主の利益は、信頼された売主であることが保証されていることであり、売主の利益は新しい販売ルートでの確立である。

ア. ショッピングサイト

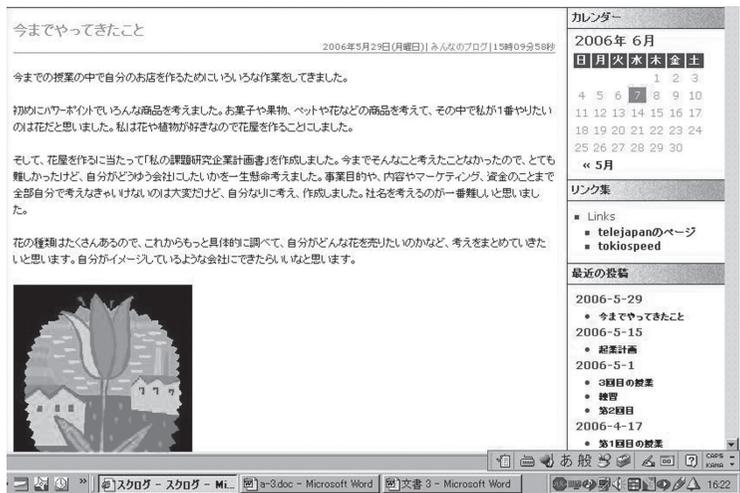
- ①商品の登録は本人が行う。
- ②商品の削除は、商品がカートに入り注文が確定すると自動的に行われる。
- ③注文書作成フォーム（ショッピングカート）により、買主が商品を選択し、注文情報（品名、数量、単価、顧客名、郵便番号、住所、電話番号）は、自動的に暗号化され、直接売主に送られる（サーバにデータを残さない）。
- ④注文書作成フォームにより、売主は、簡単に注文書を買主に送信できるようにする。

イ. ブログ

- ①本人に削除する権限を与える。
- ②ブログに商品の感想を書き込む。
ショッピングサイト管理者として、商品の掲載及びブログの管理を行う、また、書き込み状況进行分析し、マーケティングを行う。

(4) 評価

ブログの書き込み状況と、販売状況を相対的に検証し、その成果を確かめる。



生徒の日誌

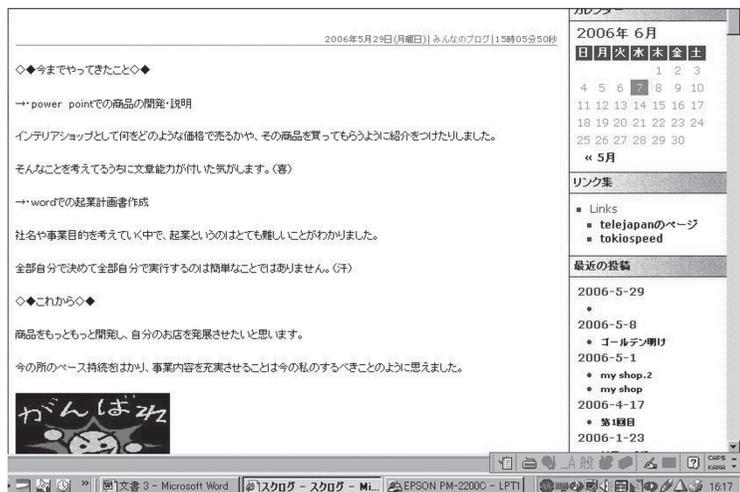
(5) 環境整備

ア. サイバーショッピングサイト及びブログサイトの構築について

「osCommerce」を使用したシステムを構築する。現在は、このソフトを標準で提供するASPが多数あるため、構築そのものは業者に外注することとする。

イ. 校内での実習環境について

校内のサーバに接続して利用する。作業のときにネットワークに接続し、ブラウザによりサービスを起動するだけで「osCommerce」の更新作業が可能になるため、セキュリティ上の問題は発生しない。（注1、注2）



ウ. 校外での運用環境について

インターネット（グローバル）環境で実施する場合はレンタルサーバを利用する。また、任意でドメインやSSL 認証を取得することになるが実施はしていない。

(6) 今後の実施計画

①仮想サーバを構築して運用実験（第1段階）

サーバを構築して、運用上の問題点を検証する。

②校内LANにおける運用・運営（第2段階）

校内LANに接続して運用する。そして、サイトを運営する生徒に、ブログ及びショッピングモールの管理方法等を説明し、運用練習をさせる。

③インターネットにおけるブログの運用・運営（第3段階）。インターネット上に発信できるサーバに構築して運用の検証をする。

④インターネットにおけるショッピングサイトの運用・運営（第4段階）

⑤商品をアップロードし、注文を開始する。

この研究を通して、通信情報ネットワーク関係の仕事に興味を持ってもらうことをねらう。

また、キャリア教育の一環として、SOHOに近い携帯のインターンシップ（インターネットを利用したショッピングモールの運用）の実現を模索する。

6. おわりに

よりよい授業を志向したい、というのがこの研究を始めた一番の動機である。

できるだけ予算を節約しながらも高度な教材を使用したいという無理な要望に応えてくださった株式会社テレジャパンには感謝申し上げたい。

今後、ブログやサイバーショッピングモールは、全国の個人商店や零細企業・中小企業等にも活用されることで、日本経済を更に活性化させるひとつのシステム・ツールになると思われる。

この取り組みは現在も進行中であり、以下の展開を模索している。

擬似オンラインショッピングサイトを体験する。

- ・商品の写真を貼り付ける
- ・販売価格を設定する
- ・仕入れ価格を設定する
- ・自分で購入してみる

- ・みんなで購入してみる
- ・購買履歴のログを出力（CSV）する
- ・そのログを会計システムに読み込む
- ・損益計算をしてみる（P/L・B/Sの作成）
- ・粗利益が算出される

このシステムを使い図書館で新着本の紹介をする。

- ・生徒が紹介した本を読む
- ・生徒が自分のブログでその本の感想文を書く
- ・先生がその感想文を見てコメントを書く
- ・生徒が書き込みをするブログは学校から書き込む
- ・学校に来られない生徒に対しては、学校以外からも書き込みできるようにする

この取り組みはまだ始まったばかりである。今後、更に検証を深めていく必要がある。

起業家教育や社会のニーズにマッチしたこのような授業を創造していくことで、社会貢献や社会的責任を意識できる人間性の育成に、少しでも寄与できればと考えている。

参考文献等

(注1) <http://dragon.jp/report/archives/000869.html>

(注2) http://www.jp.a.go.jp/security/vuln/20050304_ec_security.html